

24 年 2 月度 月例研修会

講師 種田 義信 会員

北海道開拓と開進社の光と影

かつて、函館に北海道が誇る開拓農場があり、その名を「開進社」と言った。

今はその面影はなく、石碑にのみ存在したことが刻まれているが、記憶から離れている。

「開進社」は、右大臣・岩倉具視の発案により、岩橋轍輔・宮崎簡亮が協力して明治 12 年に株式会社として設立し、函館を本局として道内 6ヶ所を開墾し、最盛期には 440 町歩の土地を開墾し 225 戸、1038 人の農家を入植させ、明治 14 年には北海道の優良農業団体として脚光を浴び、天皇行幸に際して北白川宮の視察と賞辞を受けたが、事業資金の不足などにより明治 17 年に解散に至った。

北海道における初めての大規模企業であった開進社の事業は、失敗に終わったが、結果として、北海道における開拓事業の礎になったことを確信する。



北海道開拓と開進社の光と影

種田 義信

1 開進社設立に至る時代背景

- (1) 函館開港
- (2) 金禄公債
- (3) 国立銀行
- (4) 徳川農場



2 開進社の組織と事業

- (1) 設立申合条件素案
- (2) 開墾状況
- (3) 本局と会所
- (4) 開墾地の選定



3 事業失敗の原因

- (1) 財政の行き詰まり
- (2) 開墾用地の調査不足
- (3) 役員間の内紛
- (4)

4 終わりにあたり

- (1) 華族、士族の救済
- (2) 銀行資金の行方
- (3) 開拓事業の礎
- (4)